

Q：原材料価格の動向について教えていただきたい。

マージンの確保について、耐火物価格改定の今後の見通しも知りたい

A：原料価格は概ね安定していると考えている。マグネシアはさほど大きな動きも無いが、底は打っていると考えている。マージンについては、資料にある通り確保できたし、今後もマージンは必ず確保する考えである。

Q：鉄鋼生産計画が上方修正されているようだが、今後の見通しは？

A：日本やインドの粗鋼生産は、WSA で発表されているように上向いている。今後も引き続き上方修正することを期待している。

Q：中国等を含め、海外戦略は新型コロナウイルス感染拡大以前と変わったか？

A：海外戦略について特段の変化はない。中国市場は以前からターゲットにしており、人口も鉄鋼需要も多い中国で、リスクを見極めながら拡大する方針を以前から持っている。今上期は、それが当社の技術力ともあいまって業績に結びついた。中国の鉄鋼メーカーを含め、今後も引き続き需要のあるところで利益を拡大していく。

Q：通期見通しの経常利益を10億円上方修正した要因は？

A：粗鋼生産の回復に伴う国内外の作業用耐火物のプラスに加え、コストダウンの積極的推進。需要環境と自助努力による収益改善。

Q：自然体の利益水準、実力値はどの程度なのか？

A：耐火物は鉄鋼への依存度が高いため、国内及びインド・欧州等海外の鉄鋼生産水準に利益が左右される面がある。今年の水準は異常値だと考えるが、当社は常に成長は続けていかなければならないと考えており、これまでの過去の数字を上回る状態を自然体と言えるようにしたい。

また、外部環境に頼るだけでなく、構造改革の更なる推進、環境案件、及び医療や宇宙も含めたセラミックス事業の新分野拡大等の自助努力による収益向上に取り組む。

Q：国内の高炉の休止が御社に与える影響及び、下期の高炉再稼動をどう見るか教えていただきたい。

A：耐火物供給や整備作業両面で、高炉休止の影響は大きい。従い、国内高炉メーカーの高炉再稼動は追い風と考えている。再稼動の時期が早まったこともプラス要因と見ている。

Q：海外の利益貢献度について、定性的なヒントでもいいので教えていただきたい。

A：具体的には公表できないが、非常に大きな貢献度合いである。

Q：今年度通期におけるインドおよび欧州の売上高の想定を教えてください。

A：インドは1Qをボトムとし、2Qから回復している。足元はインド国内の粗鋼生産が前年並みに戻っているため、下期は前年並みの水準を想定している。

欧州は国ごとに事情が異なるため一概には言えないが、粗鋼生産は回復基調にある。Arcelor Mittal 向けに関しては欧州でもアメリカでも高い実績を上げている。

AM-NS India はすでに安定生産に入っている。現段階での当社シェアは高くはないが、日本製鉄の出資比率を参考に連携して当社収益を拡大させたい。

インドではTATA、AM-NS India の両社に対して当社製品の需要拡大に繋げていきたい。

Q：新型コロナウイルス感染影響前と比べて事業戦略に変化はあったか？また、今後特に期待値の高い分野は？

A：中国は着実に積み上げた努力が実績に結びついた。今後も建設用耐火物も含め、

設備単位で必要となる耐火物の包括販売も行いながら拡大していきたい。中国も徐々に耐火物に求める品質が上昇しているので、当社の技術力のある製品が拡大できると考えている。

バイオマス発電用ボイラについても以前から少しずつ取り組み続けていた。現在も複数の案件に随時対応しており、ファーネス事業の1つの柱になりつつある。